



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第53号 2016年7月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX:03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

教会は響きを持つ。この響きに一つとなる時が教会の礼拝である。

教会が発する響きとは、奏楽や讃美歌、聖書朗読や祈り、説教に留まらない。親しい交わりや歓談の音が発する響きだけでもない。人気を博しているカリスマ牧師が語りかける言葉の響きだけでもない。

教会だけが発する響き…。それは言葉では言い表せない響きである。人々の魂の琴線に強く触れ、霊的に強く揺さぶられる響きである、使徒言行録で証言されている聖霊降臨の出来事がその響きのさまを告

げている。「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。」

激しい風そのものが吹いたのではなく、強風が発するような音が響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまるや、そこにいた一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだし、その声在家中に響き渡った。

これは聖霊降臨の際に起こった特異な出来事ではない。激しい風のような響きと見えざる神の霊との接触、これが教会における大きな響きの正

教会の響き

牧師 **伊藤英志**

体である。そして、これまで語ったことがない言葉を語る声を生み出し、聞いた人々が次の響きの中で強く揺さぶられていく。

この響きの連鎖があつてこそ教会は霊的に生き生きとしてくる。しかし、この響きの連鎖を人が意図的かつ恣意的に作り出すことはできない。「こうすればもつと人が集まるはずだ」「わたしが考えた企画を実行すれば教会はもつと生き生きとするはずだ」そうした思いは、時に聖なる響きの連鎖を阻むものとなる。

確かにイベントや教会らしい雰囲気づくりは大切な要素である。主日礼拝以外のプログラムは一切不要というわけにはいかない。しかし、見逃してはならない前提がある。

その前提とは「一同が一つになつて集まっている」かどうかである。聖なる響きが現れた聖霊降臨とは、「一同が心をついに集まっていたゆえの出来事に他ならない。

したがって、もし教会が何らの響きを発せられずにいるならば、そこ

にいる「一同が心をついに集まって来ているかを牧師も信徒も共に吟味すべきだろう。

満足欲、手応え欲、実績欲、誉められたい欲、称賛されたい欲、自己顕示欲。過去の栄光の回顧欲。そうした思いがいつの間にか「一つとなろう」としている「一同」に揺らぎと乱れをもたらす。

一つになれていない「一同」に対して、聖なる見えざる風は響かず、語るべき言葉も与えられないまま時間が過ぎていく。



教会だけが発する、言葉では表せない響きには、常に人を未来に向かわせる力がある。これから現れる神の御業に信頼

を寄せ、解決困難な課題があつてもなお望みを抱き、未知の領域に踏み出していく気概を奮い立たせるのだ。この響きを奏でるのは、牧師の能力や信徒の社会的実績でもない。会堂の設備の優劣でもない。

教会の響きとは、生い立ちや生きた時代の隔たりを越えて、一つになろうとして集まっている一同が献げる礼拝でのみ生み出され、体験される。世にはない、人を変えていく聖なる響きを人は切に求めているのだ。